

学生を対象とした「男女共同参画 に関する意識・実態調査」報告



埼玉大学男女共同参画室

はじめに

埼玉大学では、平成21年7月に、本学における男女共同参画および次世代育成支援対策の推進を図ることを目的として、男女共同参画室を設置いたしました。

この目的を実現するうえで現状分析を行うことが不可欠であるため、学生を対象とした「男女共同参画に関する意識・実態調査」を平成22年10月に実施しました。おかげさまで、23パーセントの方々に回答していただき、有益なデータを得ることができました。

この報告書をお読みいただき、現状の問題点と今後の課題について知っていただくとともに、本学の男女共同参画の推進に向けて、具体的な方策をともに考えていただければ幸いです。

最後に、調査にご協力いただいた方々に、深くお礼申し上げます。

埼玉大学男女共同参画室長 伊藤 博明

学生を対象とした「男女共同参画に関する意識・実態調査」概要

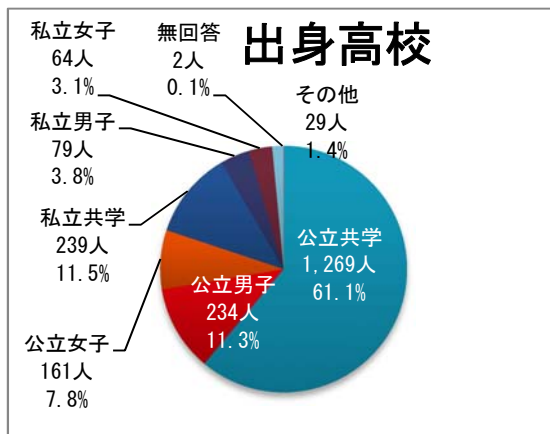
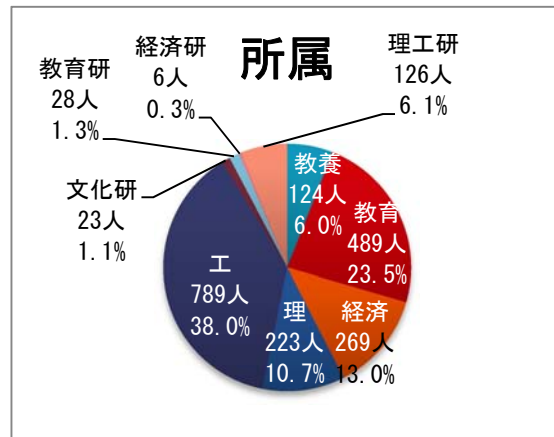
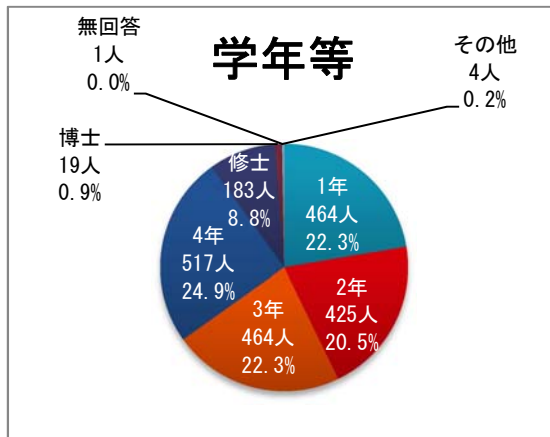
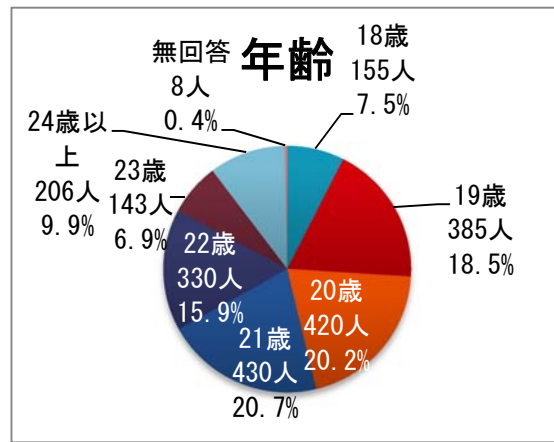
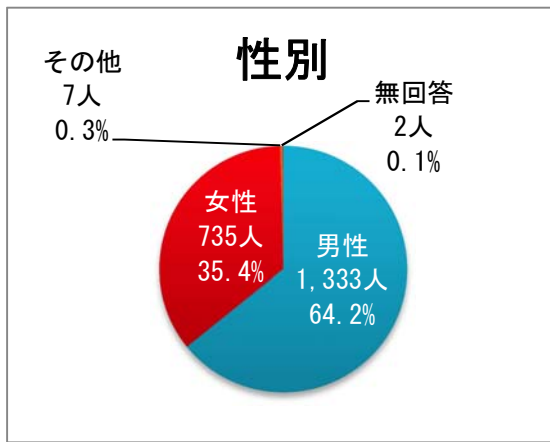
【目的】 本学の学生等の意識・実態を調査し、男女共同参画等の推進に関して、さまざまな観点から検討するための基本的な資料を作成することを目的とする。

【対象】 本学学生・大学院生・研究生等

【時期】 平成22年9月22日～10月29日

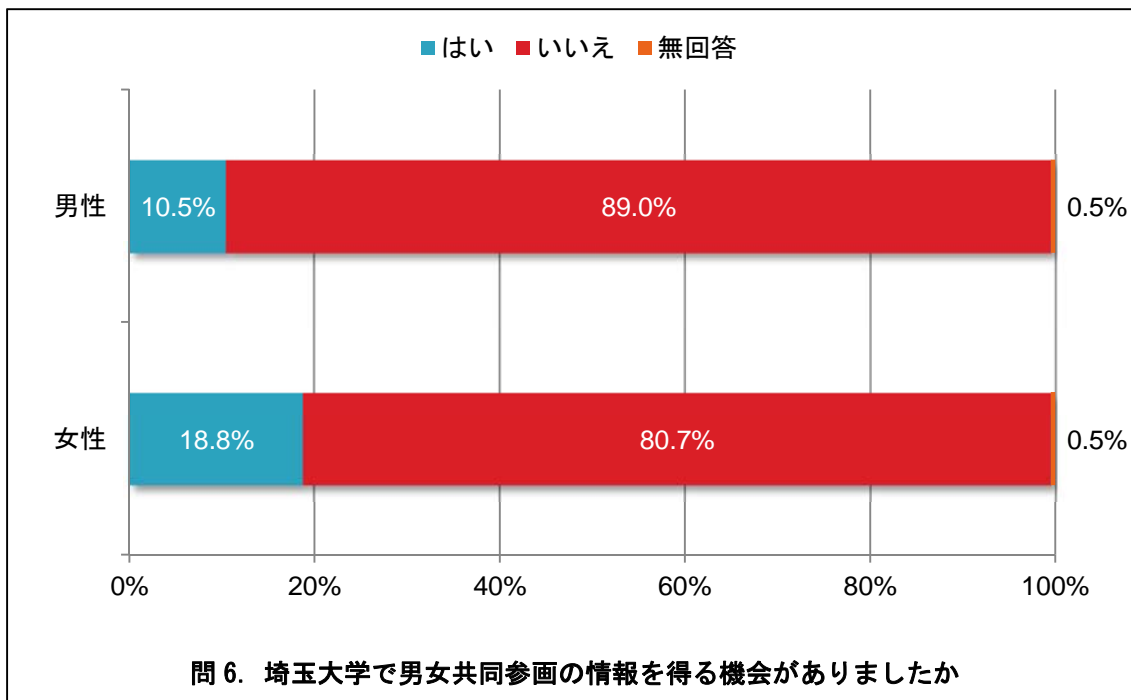
【回収】 ① 調査対象 9,013人
② 回収 2,077人
③ 回収率 23.0%

回答者について



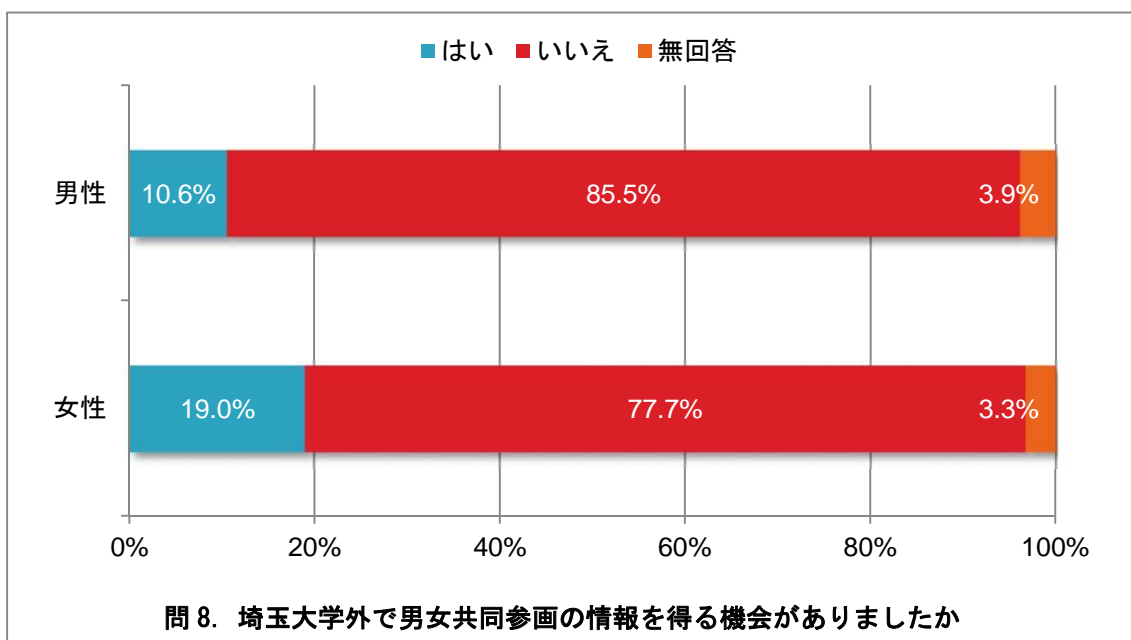
◎埼玉大学で男女共同参画に関する情報を得る機会があったか

埼玉大学の学生では、全体で 13.5%が埼玉大学の講義や演習、講演会等で男女共同参画に関する情報を得る機会があったと回答している。特に、女子学生では 18.8%と男子学生の 10.5%よりも 8 ポイント近く高い。



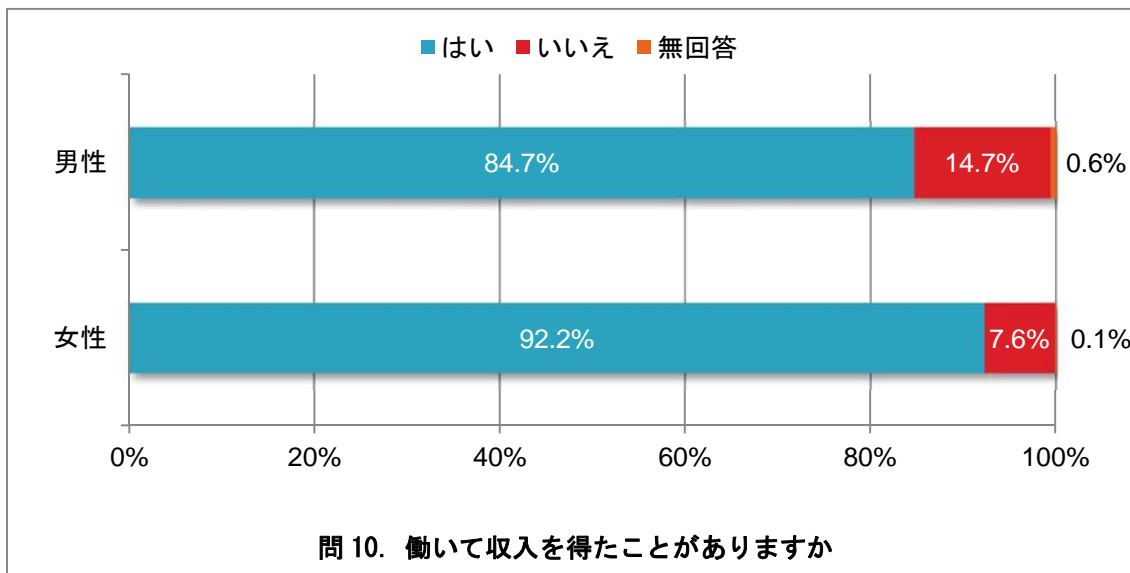
◎埼玉大学外で男女共同参画に関する情報を得る機会があったか

埼玉大学の学生では、全体で 13.6%が埼玉大学外で男女共同参画に関する情報を得る機会があったと回答している。前問と同じ傾向にあり、女子学生では 19.0%と男子学生の 10.6%よりも 8 ポイント近く高い。



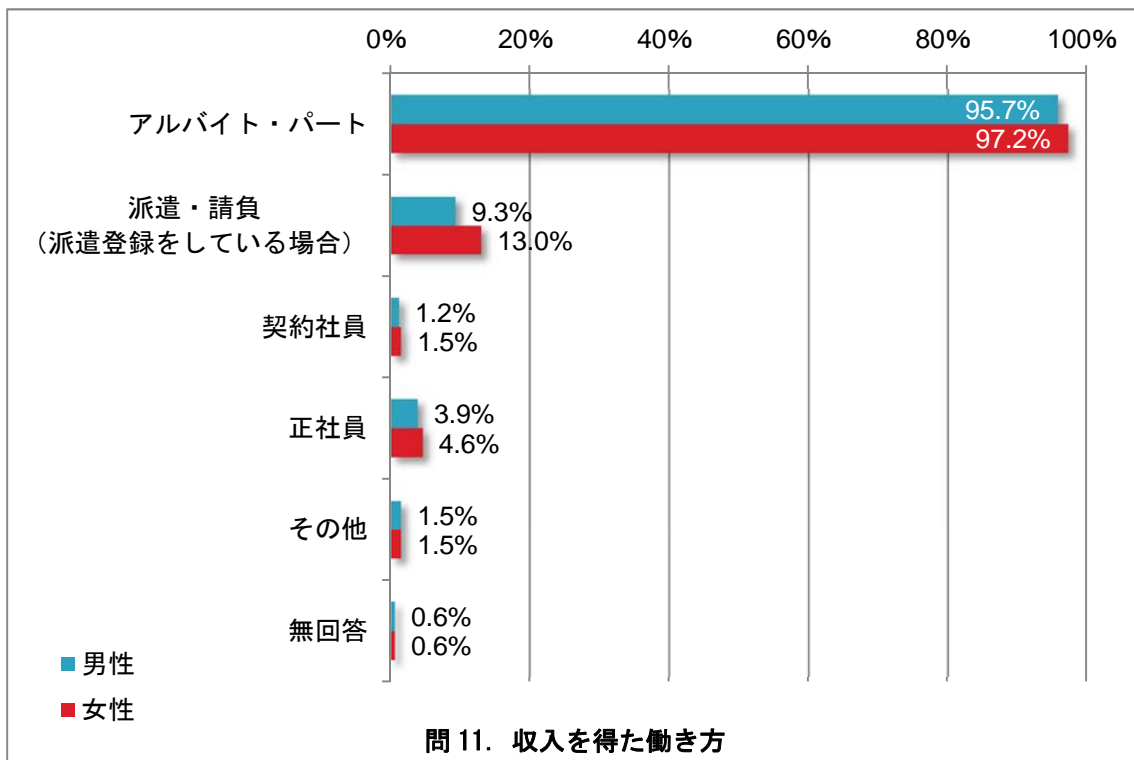
◎働いて収入を得たことがあるか

埼玉大学の学生では、全体で 87.3%が働いて収入を得た経験を持っていた。特に、女子学生では 92.2%と 9 割を超えて働いて収入を得た経験をもっており、男子学生の 84.7%よりも 8 ポイント近く高い。



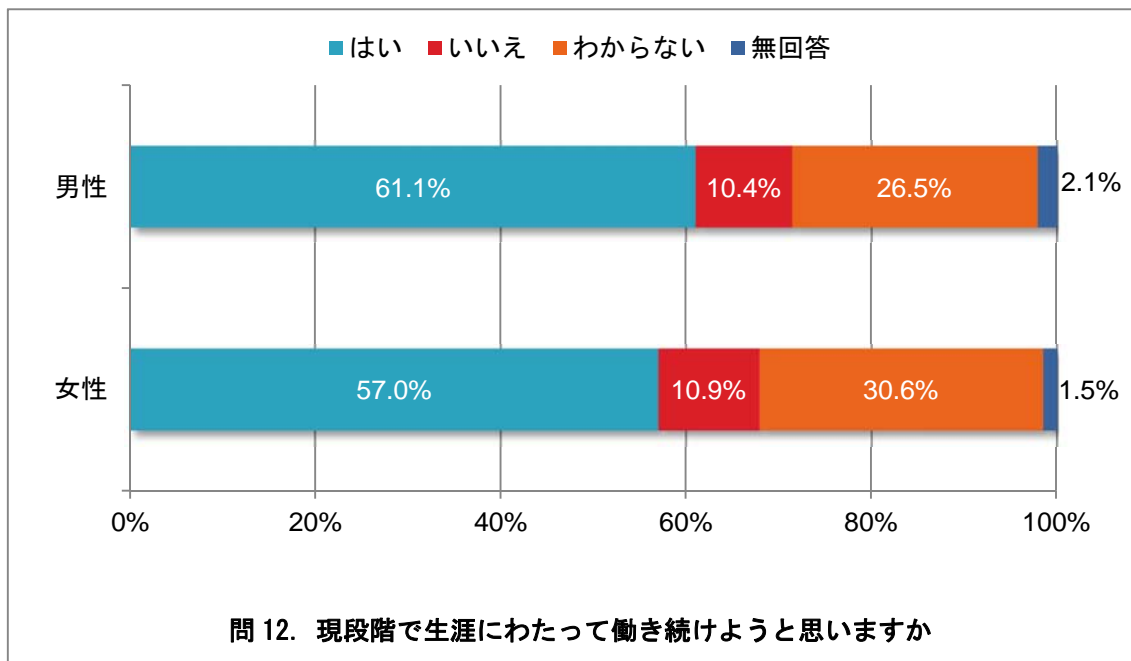
◎収入を得た働き方

働いて収入を得た経験があるとした学生の中で、その働き方を複数回答で聞いたところ、アルバイト・パートは男女とも 95%を超えている。一方、派遣・請負という働き方を経験している者も男子学生で 9.3%、女子学生で 13.0%と、学生の働き方として一定数を占めている。



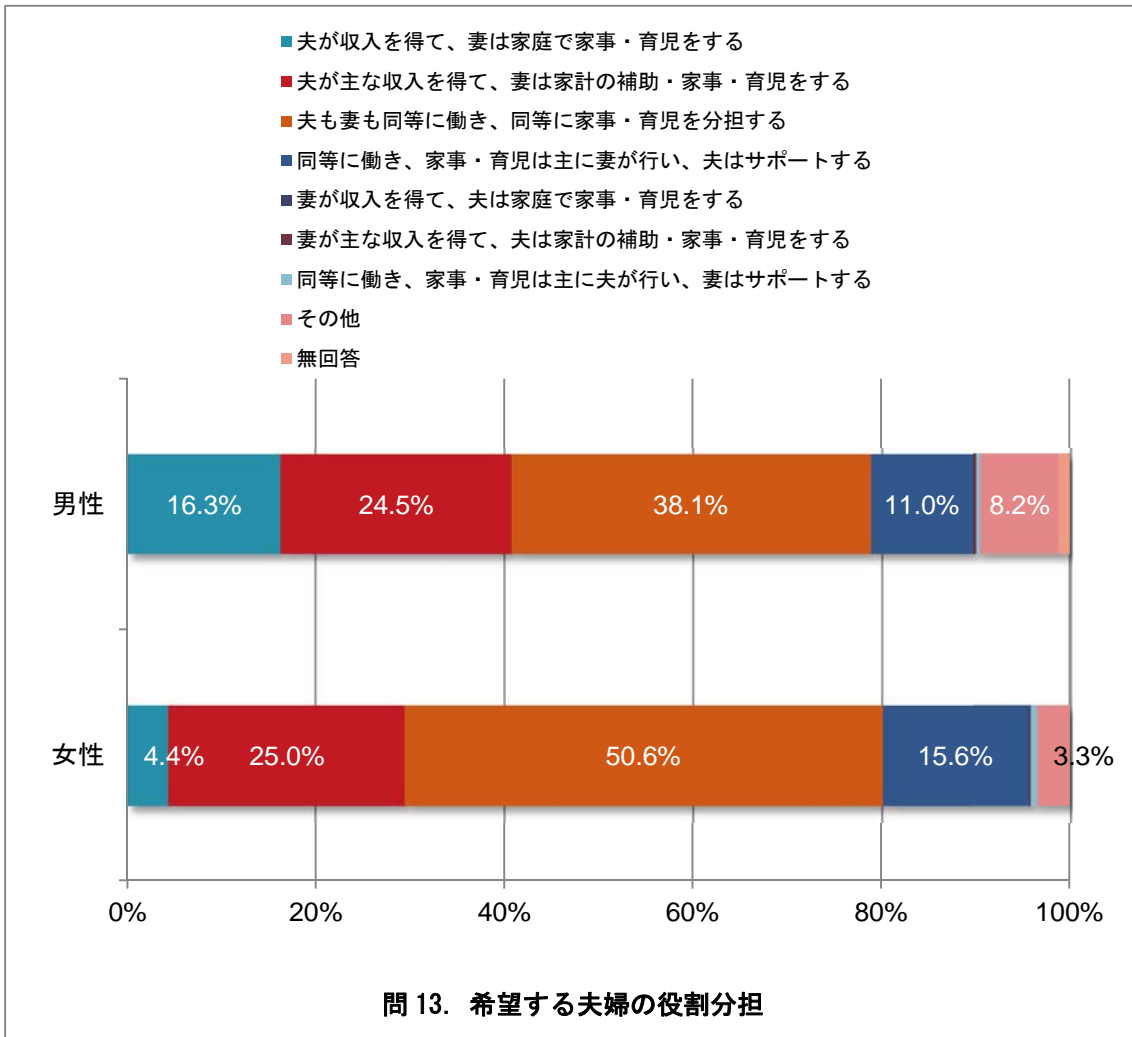
◎現段階での働くことへの希望

現段階で、生涯にわたって働き続けようと思っているかを尋ねたところ、男子学生で61.1%が、女子学生で57.0%が「はい」と回答している。その割合は、男子学生よりも女子学生の方が4ポイント程度低い。一方、「わからない」という者も男子学生で26.5%、女子学生で30.6%おり、働くことに関する意思が定まっていない者が男女ともに3割程度いることがわかった。



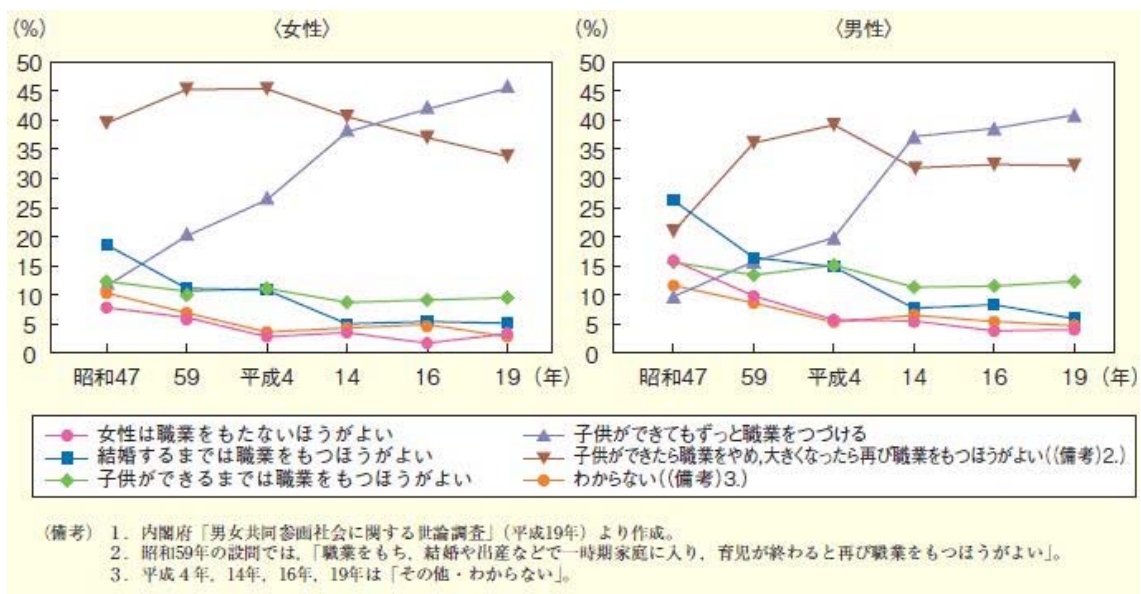
◎希望する夫婦の役割分担

希望する夫婦の役割分担を尋ねたところ、男子学生と女子学生の間で大きく希望が異なっている項目があることがわかった。男子学生では16.3%が「夫が収入を得て、妻は家庭で家事・育児をする」を希望している一方、女子学生では4.4%しかそうした夫婦の役割分担を希望しておらず10ポイント以上差が開いていた。逆に、「夫も妻も同等に働き、同等に家事・育児を分担する」では、女子学生で50.6%と半数を超えた学生が希望している一方、男子学生では38.1%と10ポイント以上の差が開いている。「同等に働き、家事・育児は主に妻が行い、夫はサポートする」を希望する学生は、女子学生15.6%、男子学生11.0%と女子学生の方が若干高い。女性の社会進出という意味での女子学生の意識の変化はみられる一方で、家事や育児の分野を男性が担うことへの抵抗感が女性の方で強いことが示唆される。「夫が主な収入を得て、妻は家計の補助・家事・育児をする」については、男子学生も女子学生も約25%と男女差がほとんどなく、一定の支持を得ている夫婦の役割分担像であることがうかがえる。



参考

図表 1 女性の働き方に関する意識の男女差



◎自分自身について

男女ともに半数以上が「自分の役割について考えて行動している」と回答した。また男子学生の43.2%、女子学生の54.2%と半数前後が「誰とでも仲良くなれると思う」と回答しているなど、まじめで穏やかな学生像がうかがわれる結果となった。

一方で「自分に自信がもてない」と男子学生の43.2%、女子学生の48.4%が回答し、また「自分は周りから必要とされていないと感じる」を男女いずれも4割がどちらでもない」と回答するなど、自分の存在意識を十分感じることができない不安感が垣間みられた。

◎年少者と遊んだ経験について

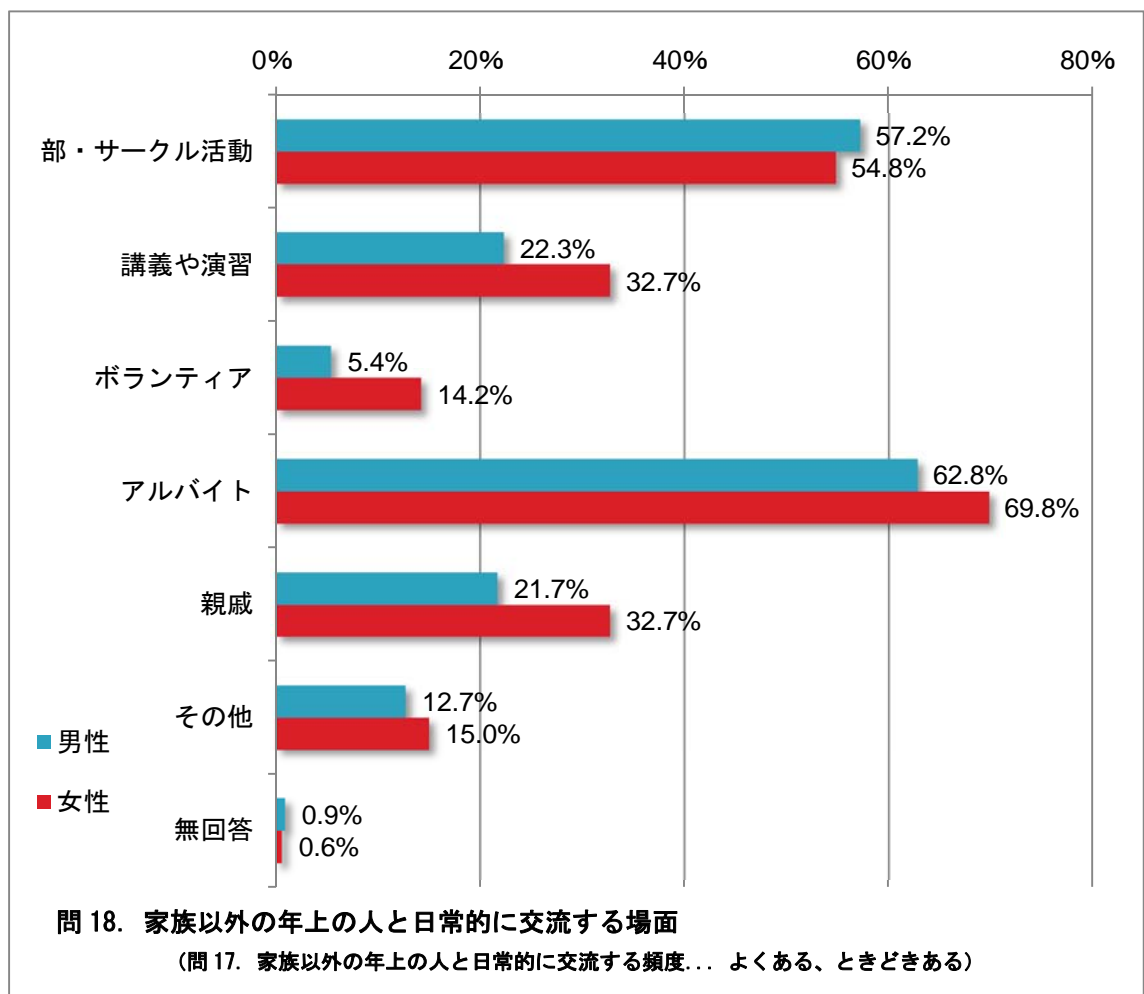
小学校を卒業以降、幼児と遊んだことがあるのは男子学生で33.1%、女子学生で42.4%であるが、乳児(0歳)の世話をした経験は、男女ともに1割程度であった。

学生全体が異世代とかかわる力が弱いと指摘されているが、年少者、特に年齢が低い子どもとかかわる経験は少ない実情が明らかになった。

◎家族以外の年長者との日常的な交流について

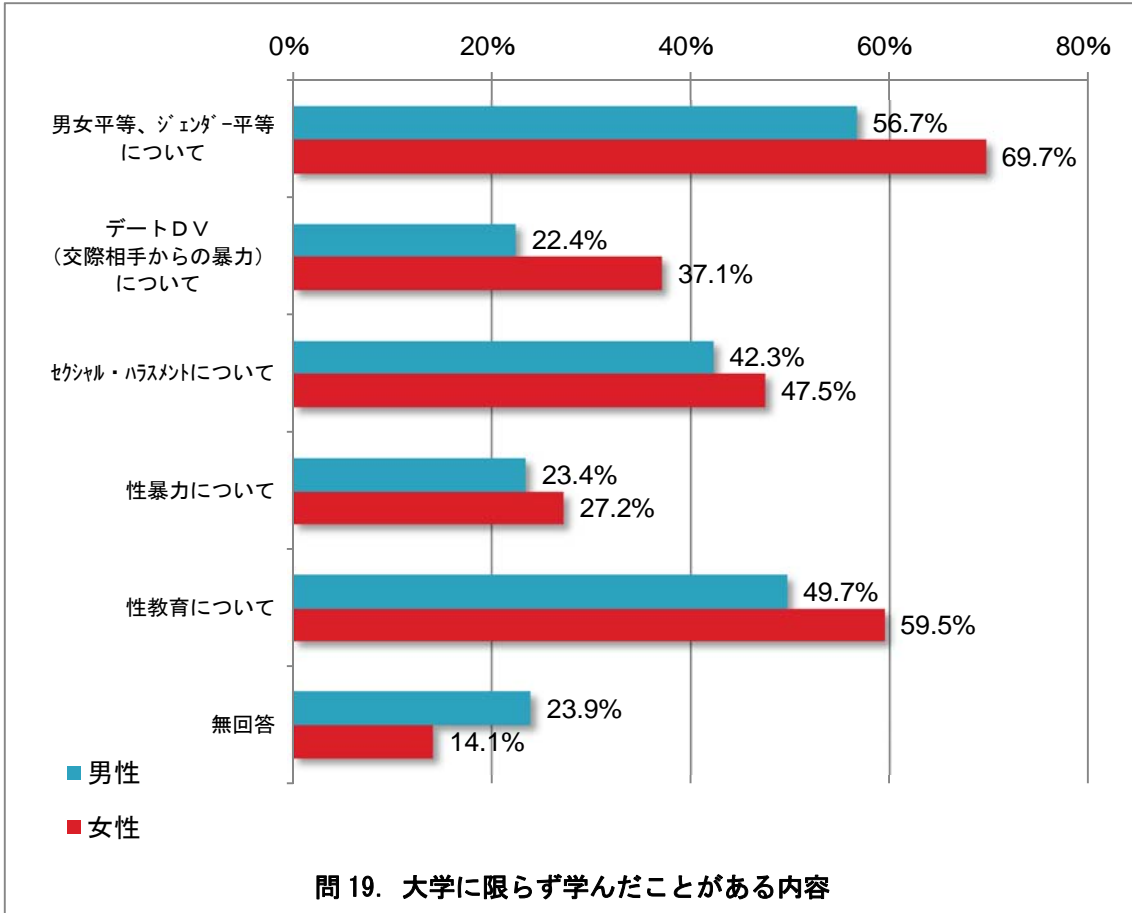
家族以外の年長者との交流の実態についてたずねたところ、男子学生で80.1%、女子学生で87.4%と多くのものが日常的に交流していると回答した。

ただし年長者との交流の具体的な場面は、グラフにみられるように、アルバイト先や部活動、サークル活動であった。部活動、サークル活動での交流は、年長者は先輩学生が中心であり、年齢差は大きくないことが予想される。



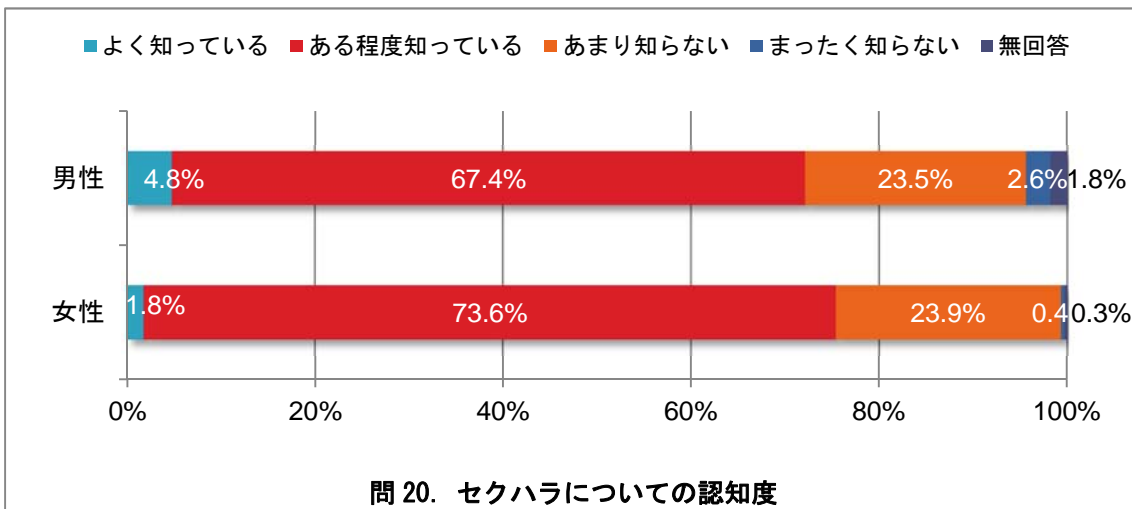
◎大学に限らず学んだことがある内容

男女平等、ジェンダー・性に関することについては、女子学生の方が男子学生に比較し学んだ機会が多い。大学生にとって身近なデートDV、性暴力については、男女ともに3割以下となっており、学ぶ機会が少ないことがわかる。



◎セクハラについての認知度

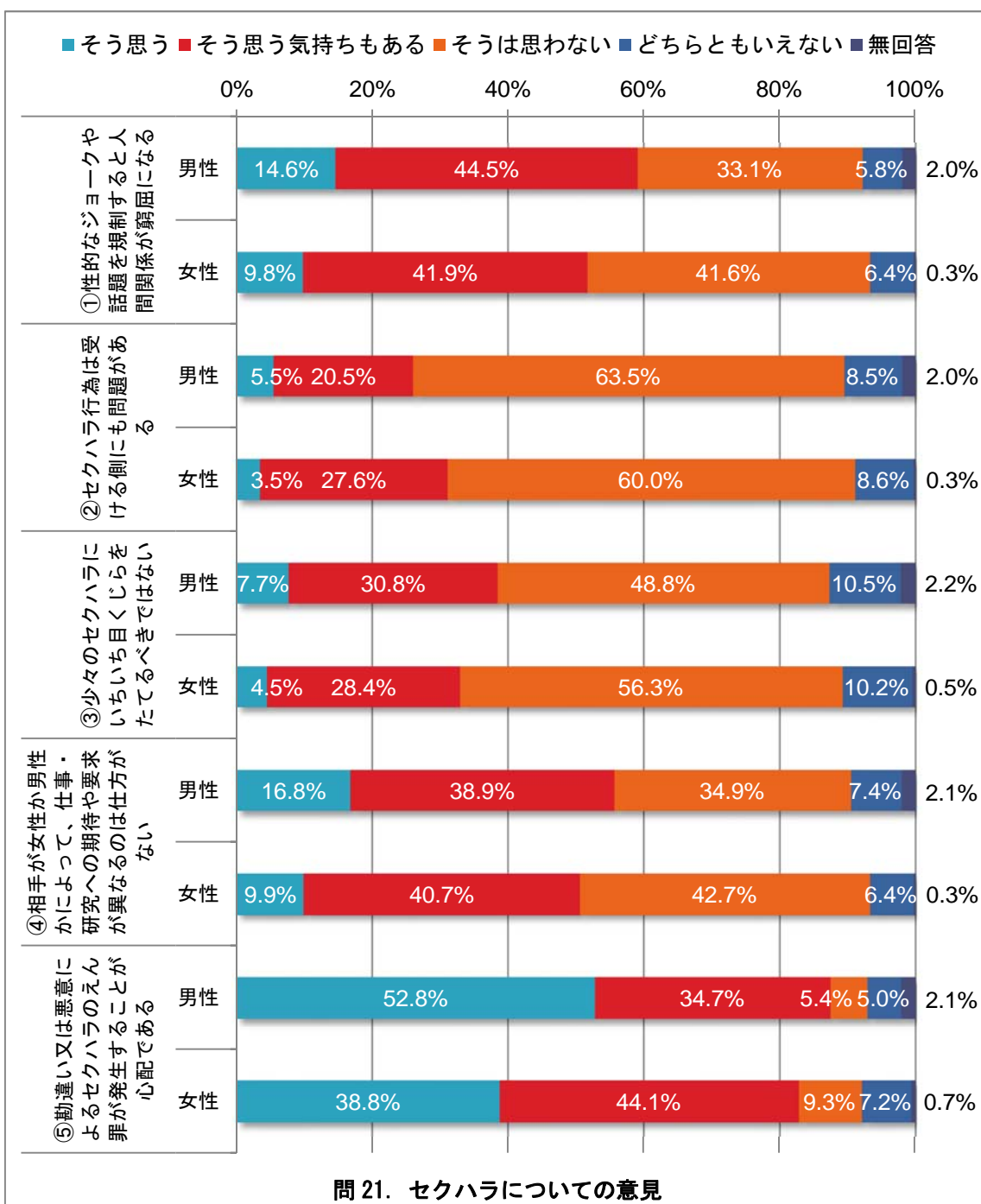
セクハラについて、ある程度知っていると答えたものも含めれば、7割程度であるが、よく知っていると答えたものは、男子学生4.8%、女子学生1.8%と極めて少なく、教職員調査の約15.3%を大きく下回る。



◎セクハラについての意見

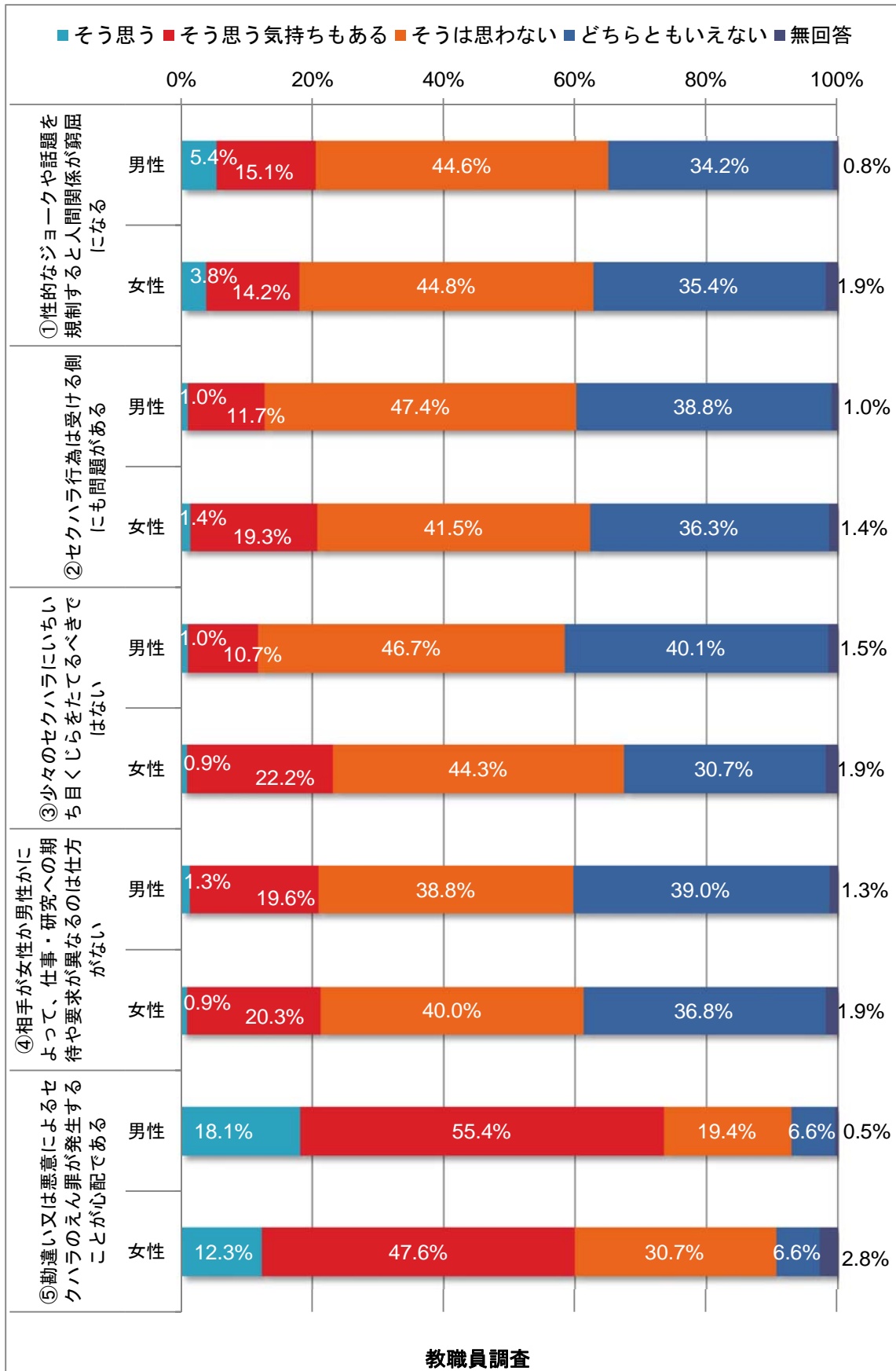
これらの項目は、いずれもセクシュアル・ハラスメントを容認する基盤を支えるものである。教職員調査と選択肢が異なるため、単純な比較はできないが、すべての項目において、「そう思う」「そう思う気持ちもある」と答える率が、教職員より学生の方がかなり高くなっている。これは、セクハラについての学習の機会の不足と、それに基づくセクハラについての基本的理解の不足の表れだと推測できる。

たとえば、えん罪に対する警戒の高さは教職員の約3倍、「受ける側に問題がある」と答える率は、「そう思う」と「そう思う気持ちもある」を含めると約3分の1を占めている。受ける側の問題をあげる率については、教職員も学生も女性・女子の方が男性・男子に比較し高くなっている。



問 21. セクハラについての意見

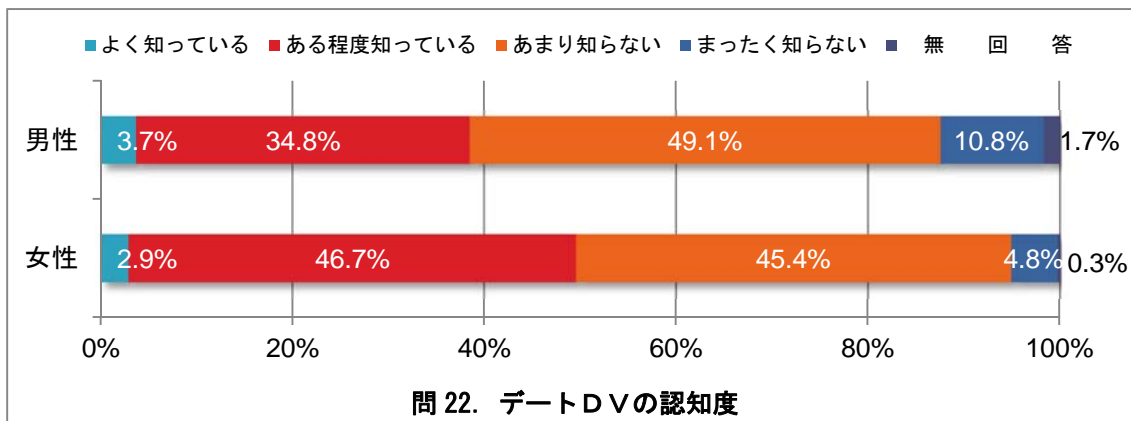
〈参考〉教職員調査



教職員調査

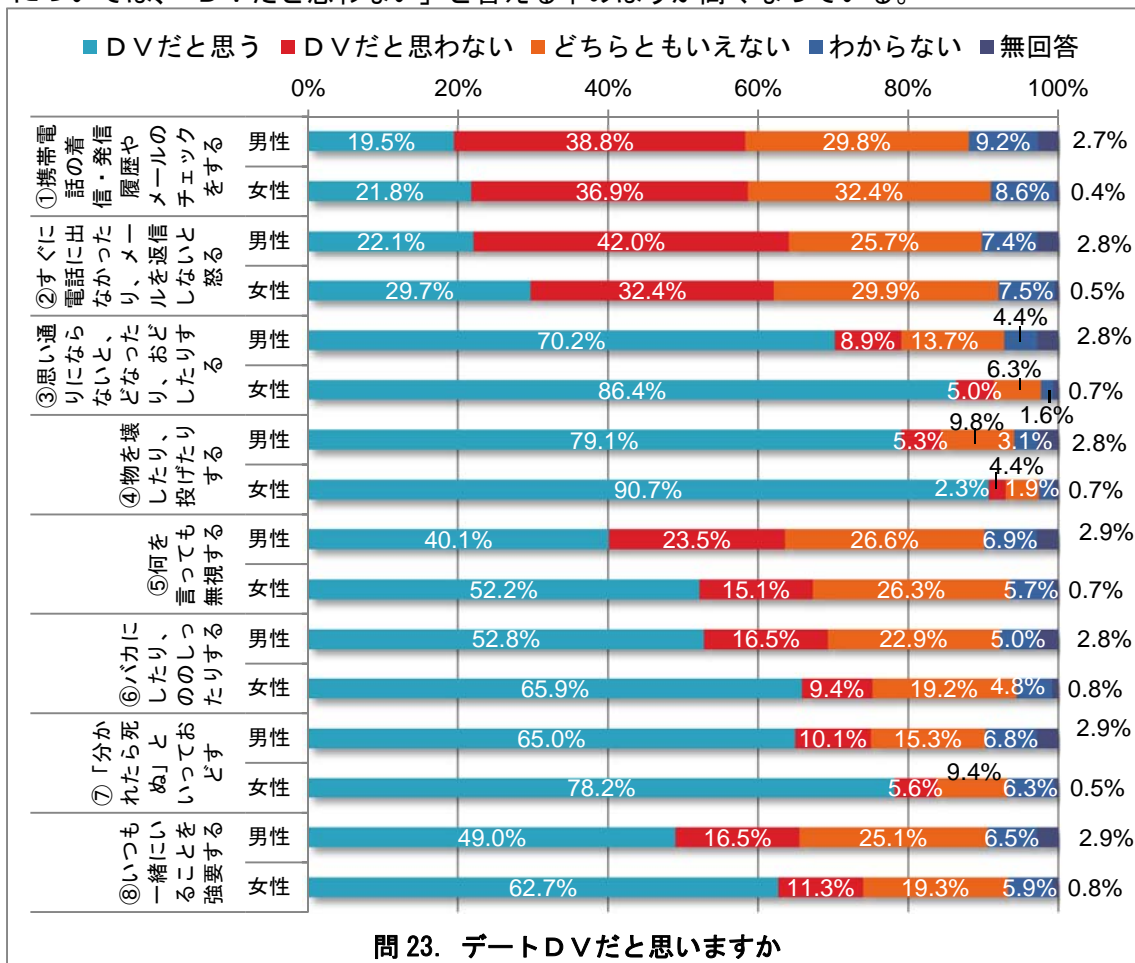
◎デートDVの認知度

学生にとっては身近な問題であるはずのデートDVについて半数以上が「知らない」という回答であった。これは、さいたま市の調査（2002年）では、「知っている」「知らない」の二者択一のため、「知らない」と答えた大学生6割強であった結果とほぼ一致するといえる。



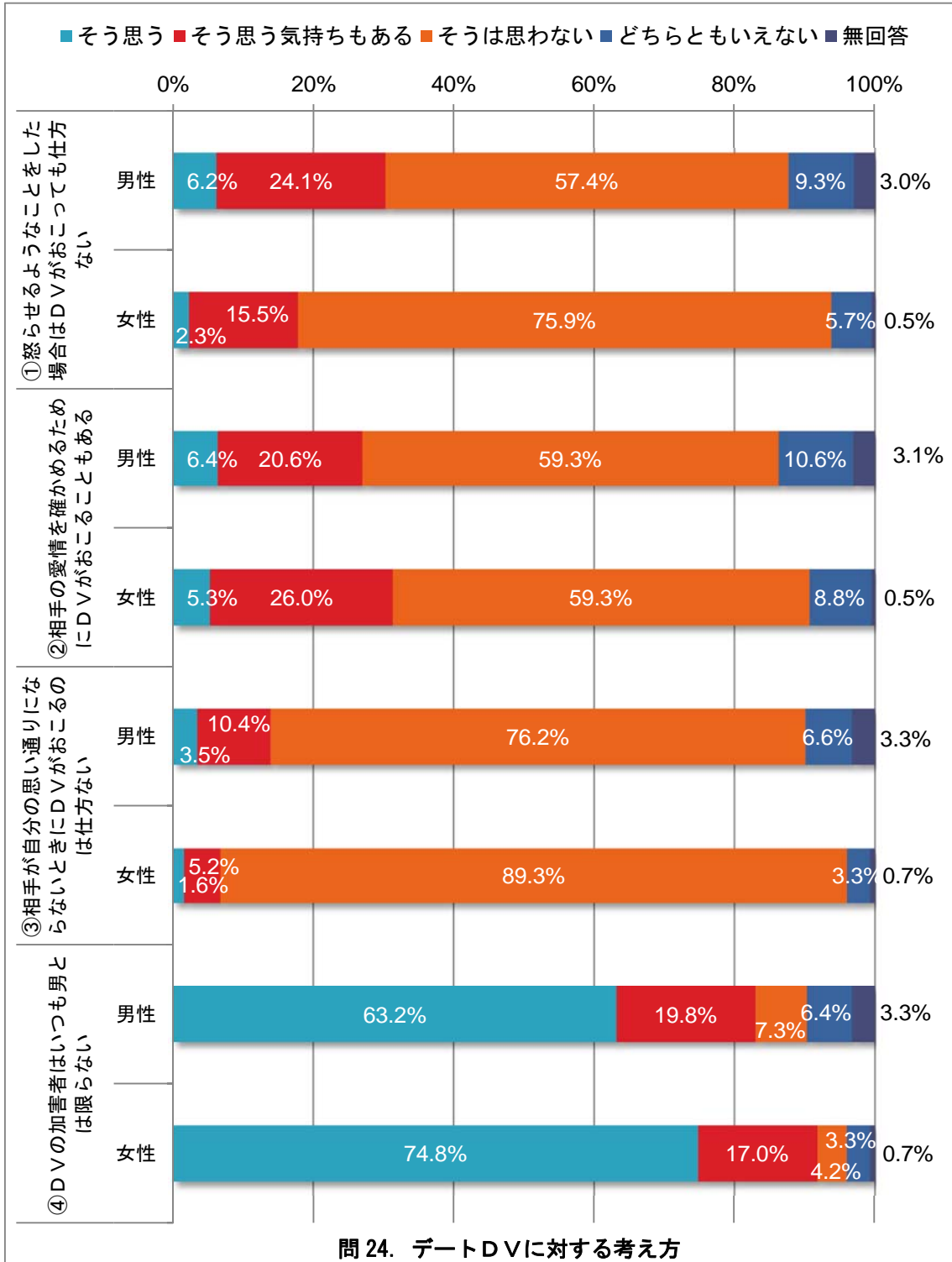
◎デートDVだと思うか

身体的な暴力、あるいは「どなる・おどす」といった行為がDVであると認識はできるが、携帯電話を通して起こりがちな「相手の行動を支配・コントロールするような行為」については、「DVだと思わない」と答える率のほうが高くなっている。



◎ デートDVに対する考え方

男性もDVの被害者になり得るということについては、男女とも高い率で「そう思う」と回答している。「怒らせるようなことをした場合」はDVがおこっても仕方がないと答える率は男子学生に多く、「愛情を確かめるため」なら仕方がないと答える率は女子学生に多くなっている。いずれにしても、「〇〇の場合はDVがおこっても仕方がない」という問いに対して、「そうは思わない」率が高くなっているが、DVを暴力的な行為としてしか理解していない前提だとすれば、この数値は必ずしも評価できるものではない。

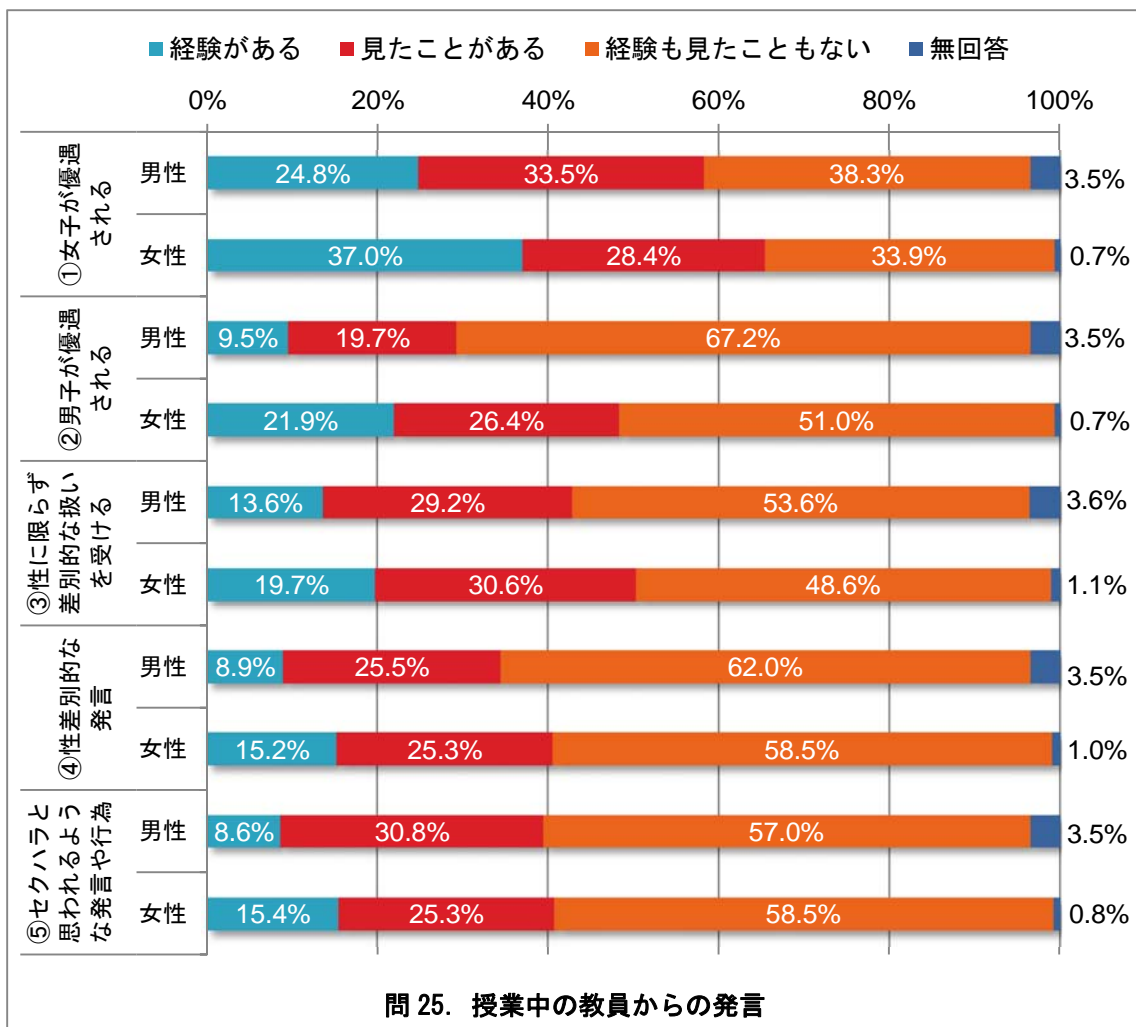


問 24. デートDVに対する考え方

◎授業中の教員からの発言

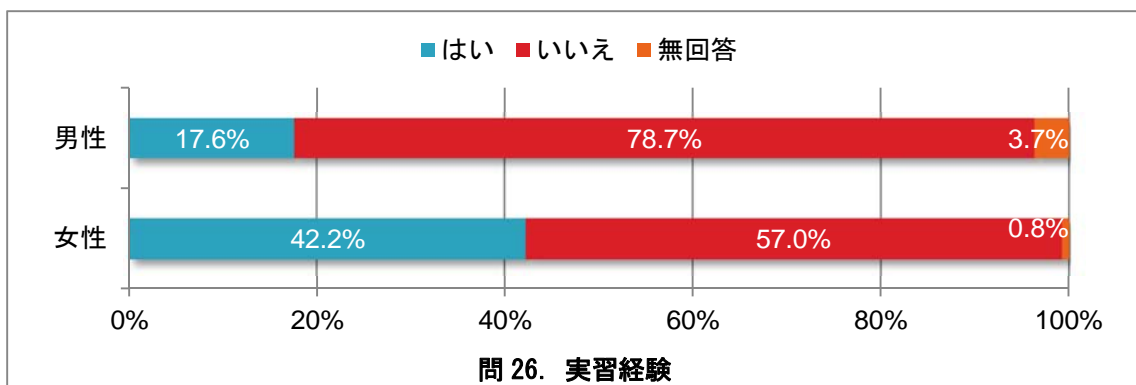
男女による扱いの違いは多くの学生が「経験がある」「見たことがある」と答えているが、「男子が優遇されている」ことについての男女の認識の差は最も大きくなっている。

性差別的な発言については、4割以上、セクハラについても、男女とも約4割の学生が「経験がある」「見たことがある」と答えている。



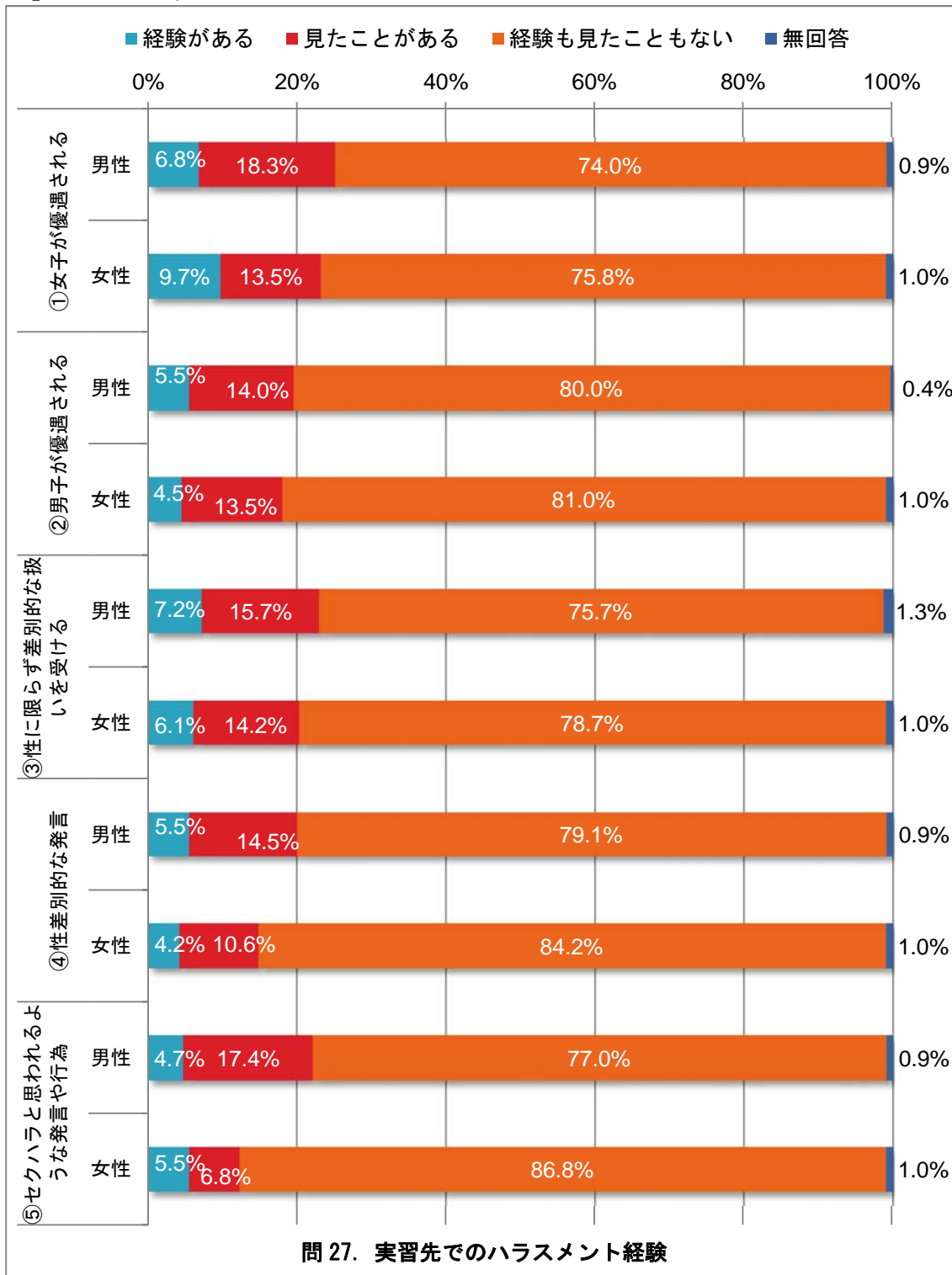
◎実習経験

教育実習、介護実習などの実習経験は、男子学生 17.6%、女子学生 42.2%であった。



◎実習先でのハラスメント経験

ジェンダー・ハラスメント（性差別的ないやがらせ）に関しては、「女子が優遇されている」ことについて「経験がある」「見たことがある」と回答している者は、「男子が優遇されている」より、男女とも高い率になっている。また、セクシュアル・ハラスメントについては、男子学生の方が「見たことがある」と答える率が女子学生の約3倍となっている。性に限らない差別的扱いについても、20%前後の学生が経験、あるいは「見たことがある」としている。



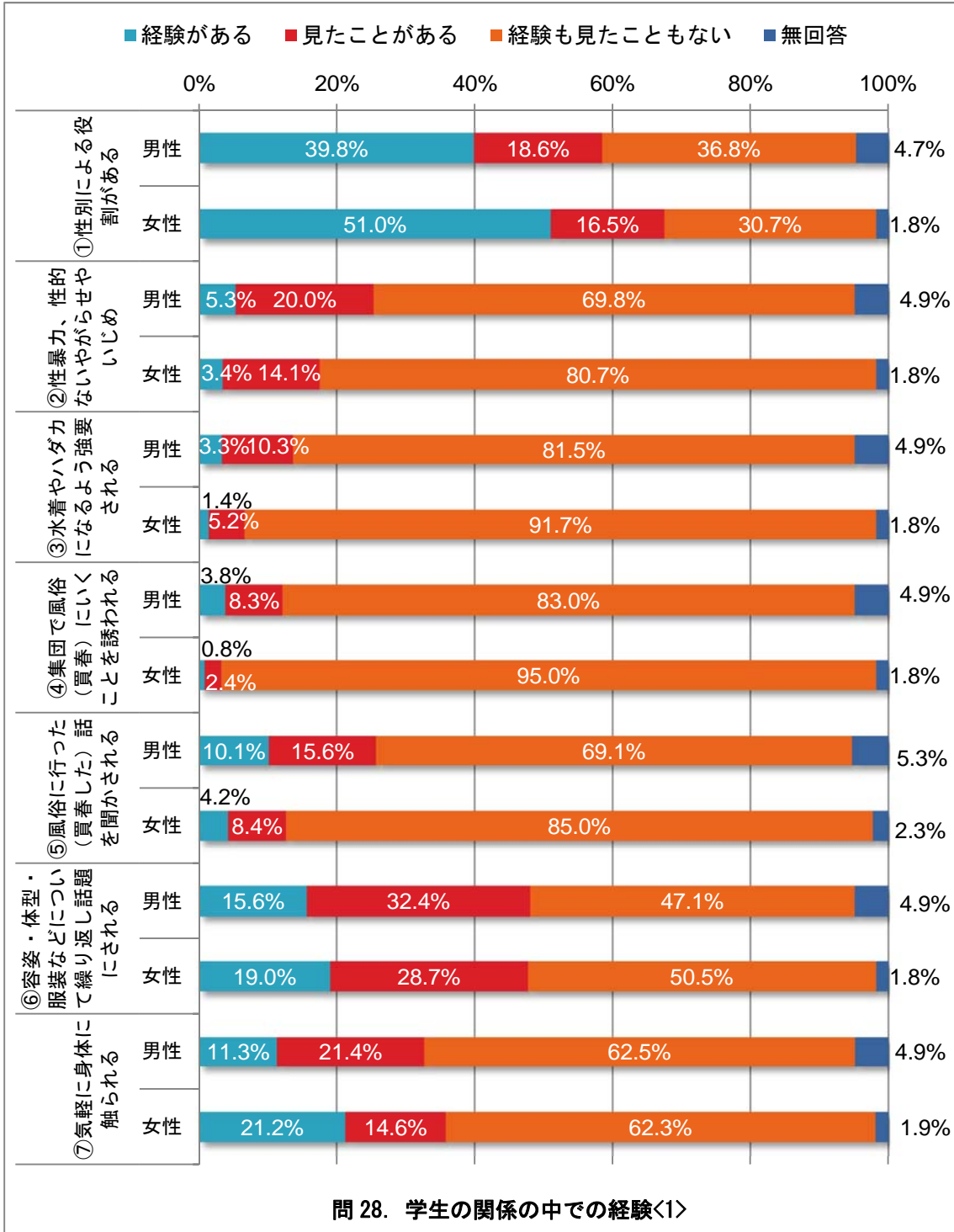
問 27. 実習先でのハラスメント経験

◎学生の関係の中での経験〈1〉

性別による役割については、男子学生で4割、女子学生で5割が経験しており、「見たことがある」を含めると6~7割を占めることになる。若者の間でも、性別役割分業が強固に存在していることがわかる。

また、「性暴力・性的ないやがらせやいじめ」については、男子学生5.3%、女子学生3.4%の者が経験しており、「見たことがある」を含めると約4分の1となる。風俗（買春）に誘われる経験は、3.8%の男子学生があると答えている。

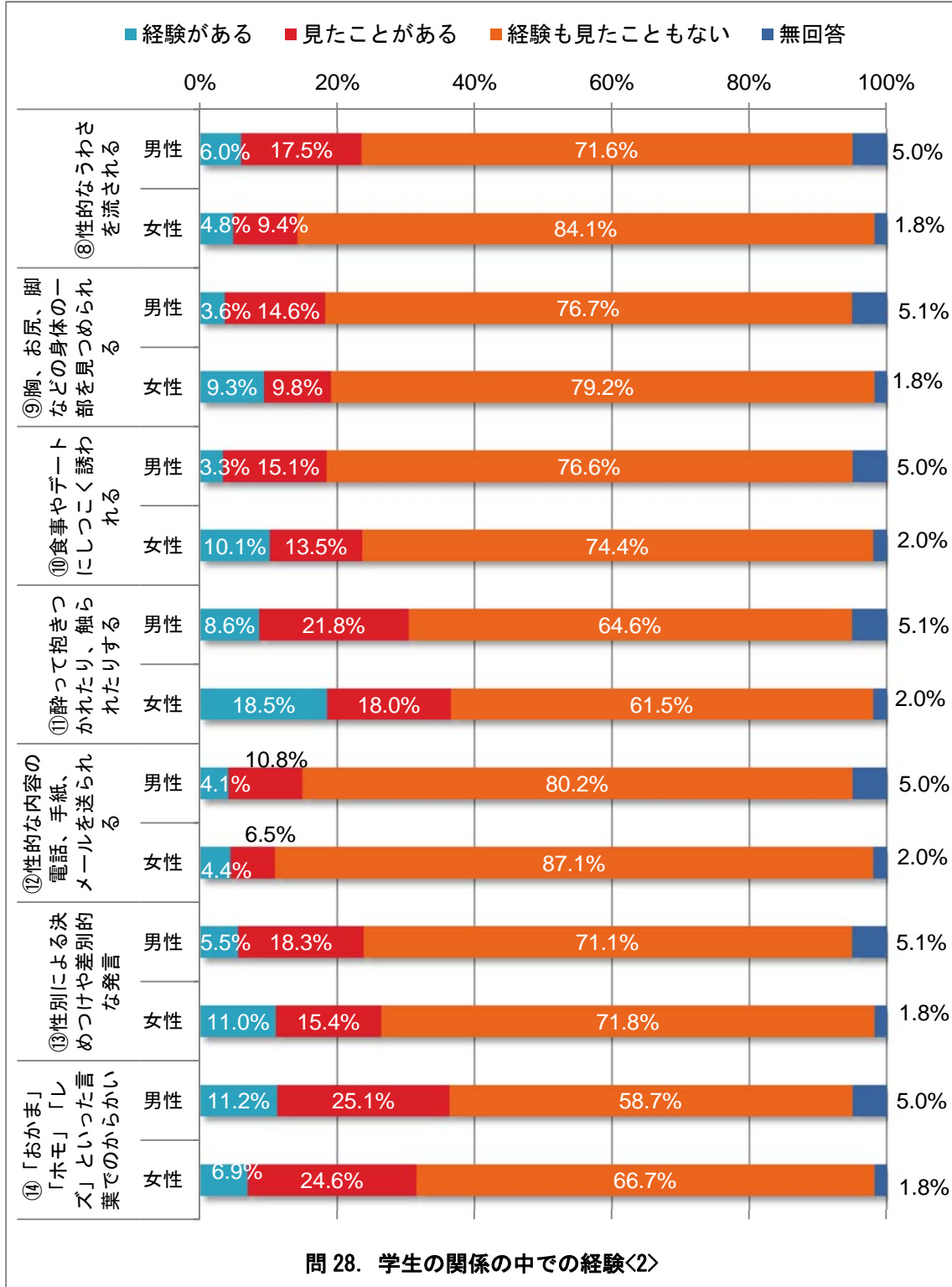
容姿についての指摘や身体接触についても女子学生の約20%が経験している。



問 28. 学生の関係の中での経験〈1〉

◎学生の関係の中での経験〈2〉

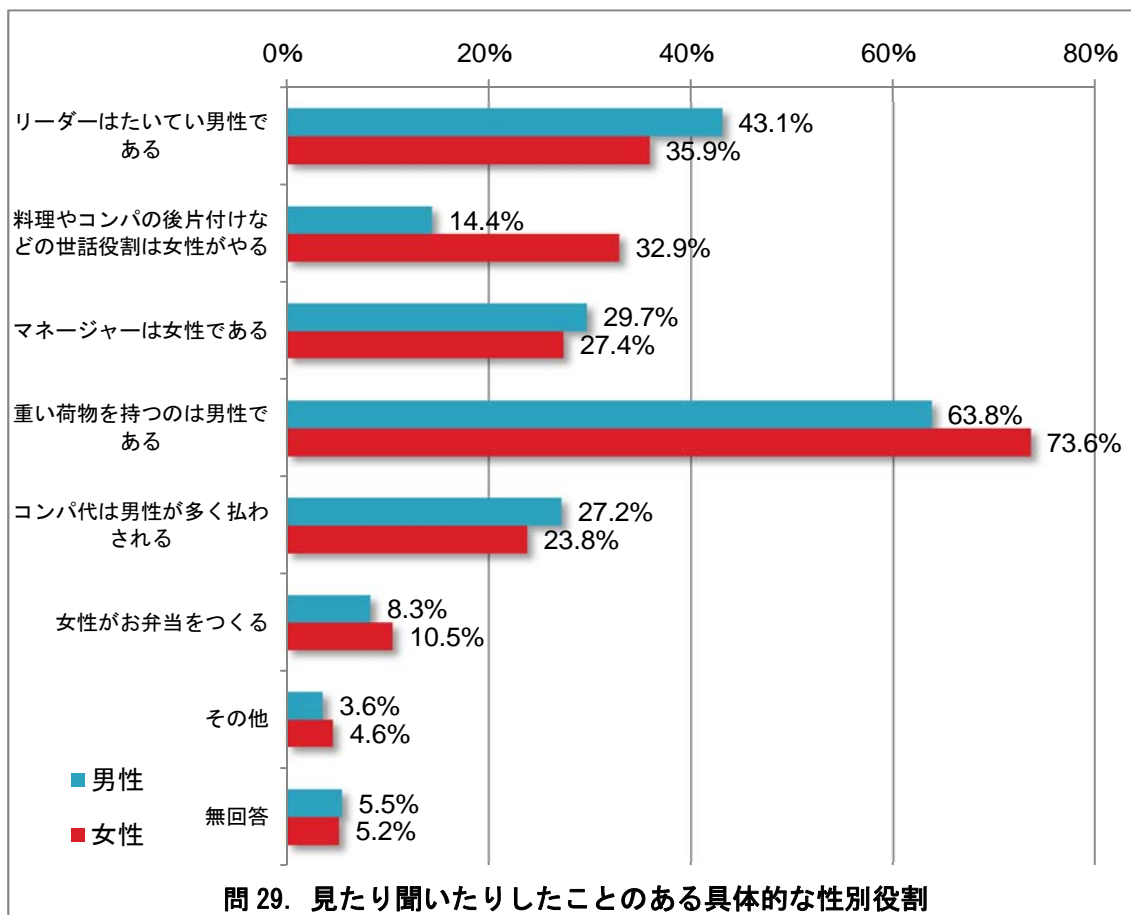
コンパなどアルコールを飲む場面でのセクハラ行為については、男女とも 30~40%の者が経験、あるいは「見たことがある」としている。「おかま」「ホモ」ネタによるからかいなど、セクシュアル・マイノリティに対する差別的な行為は、男子学生で 11.2%、女子学生で 6.9%が経験しており、「見たことがある」者を含めると、4 割前後の学生が認識していることになる。



◎見たり聞いたりしたことのある具体的な性別役割

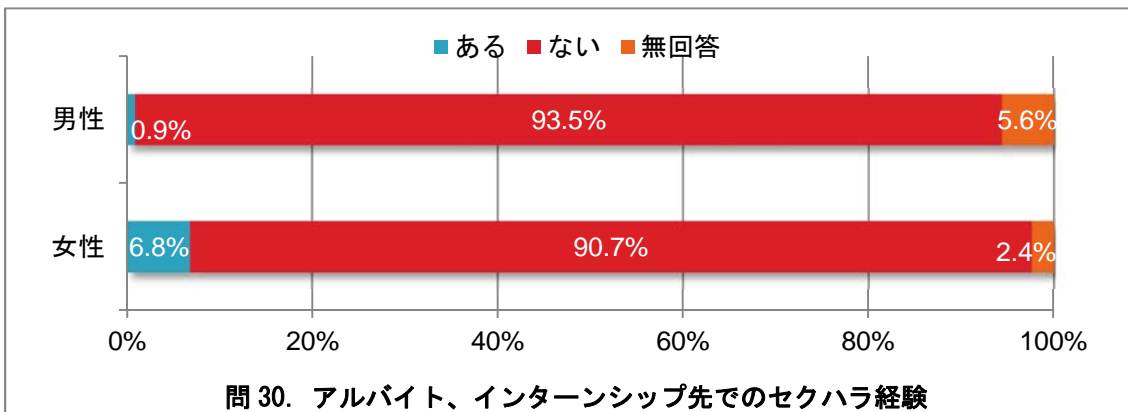
問 28 で根強く見られた性別役割分担について具体的に見ると、力仕事については、男女とも高い率で男性に振り分けられていることを認識している。リーダーシップを男性が取ることにしても、男子学生で 43.1%、女子学生で 35.9%が「見たり聞いたりした」と答えている。

料理や後片付けなどを含む世話役割については、男女の認識に大きな差が見られ、女子学生は 30%以上が「見たり聞いたり」していると答えているが、男子学生は女子学生の半分以下の割合となっている。



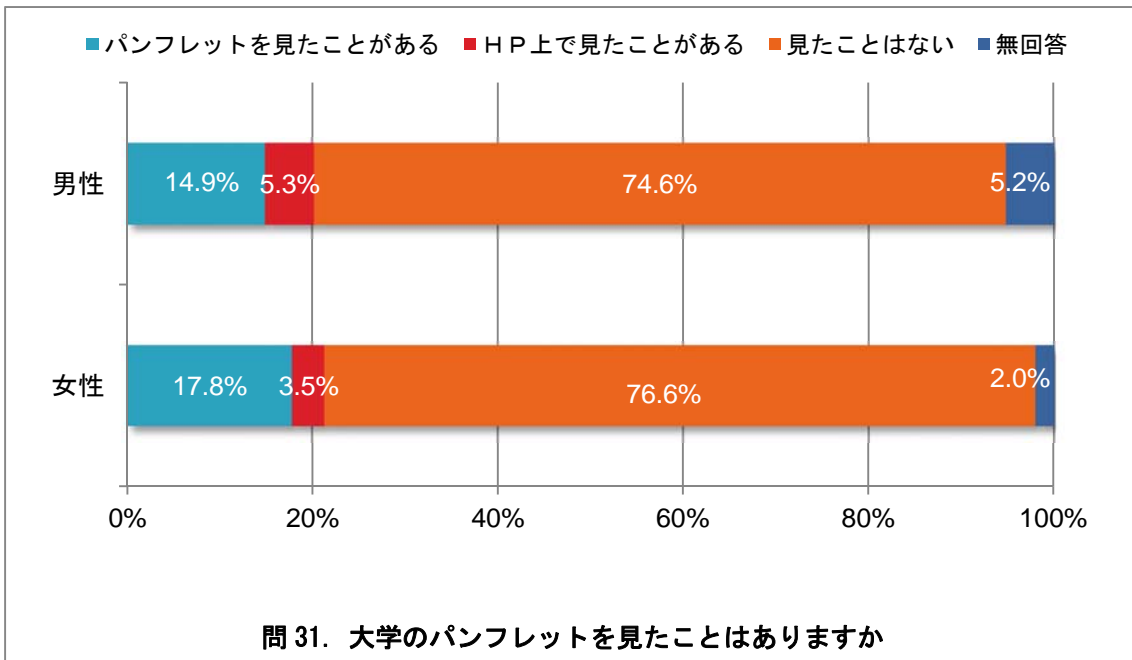
◎ アルバイト、インターンシップ先でのセクハラ経験

アルバイト、インターンシップ先でのセクハラについては、女子学生で 6.8%が経験していると回答している。実数は 63 人である。



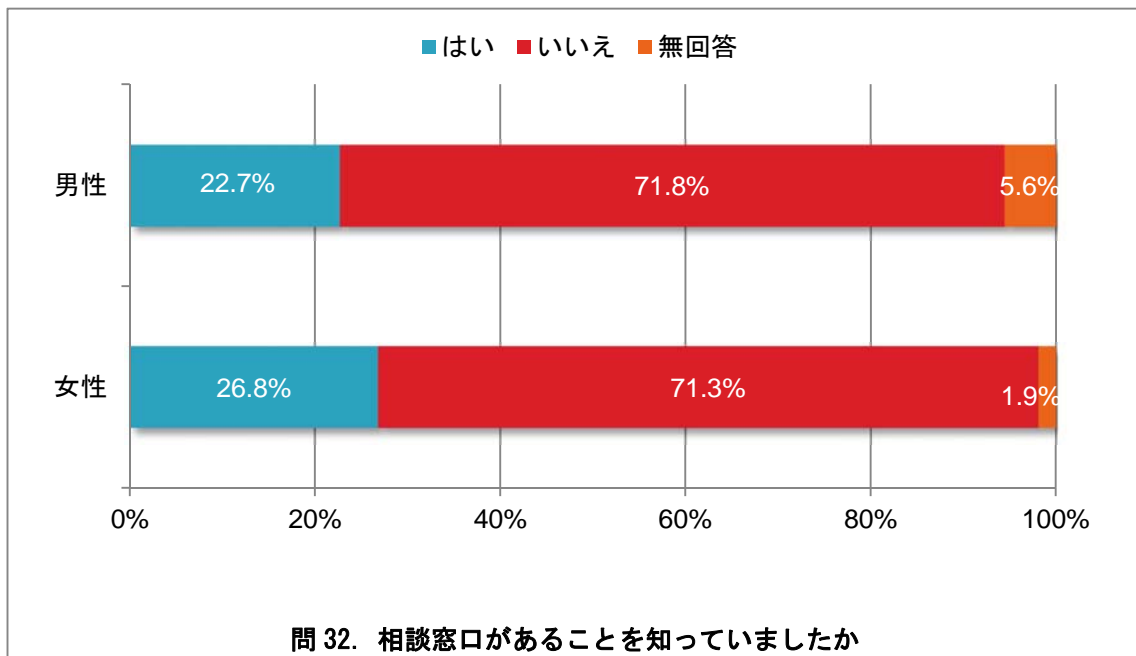
◎大学のパンフレットを見たことがあるか

大学が発行しているハラスメントについてのパンフレットを見たことがあると答えているものは、約2割であり、認知度の低さが浮き彫りになった。



◎相談窓口を知っているか

パンフレットと同様、相談窓口についても男子学生 22.7%、女子学生 26.8%となっており、認知度は高いとはいえない。



男女共同参画に関する意識・実態調査のお願い

平成22年9月22日

埼玉大学学生の皆様

埼玉大学では、昨年7月23日に「男女共同参画室」が開設されました。

「男女共同参画」(gender equality)とは、男性も女性も、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保されること、そして、男性も女性も均等に政治的、経済的、社会的および文化的利益を享受することができ、かつ、ともに責任を担うべき社会を創りだしていくことです。

今後「男女共同参画室」を中心にして、埼玉大学における「男女共同参画」の実現と、さらなる発展に向けて、さまざまな取り組みをしていく所存です。

つきましては、この目的を達成するための基本的な資料を作成するために、学生・大学院生・研究生等の皆様の意識・実態調査をさせていただくことにしました。趣旨をご理解のうえ、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、本調査の内容につきましては、個人情報の保護を徹底するとともに、調査結果の公表の際には、個人が特定されないように留意し、目的外には使用いたしません。

埼玉大学男女共同参画室長 伊藤 博明 (教養学部教授)

提出期限	平成22年10月29日(金)
提出先	所属学務担当係
提出方法	回答後、本用紙を専用の回収箱へ投函してください。
	回収箱設置場所 各学部・理工学研究科学務担当係窓口

問い合わせ先：男女共同参画室長

TEL：048-858-3590 E-mail：hito@mail.saitama-u.ac.jp

総務部人事課教職員係

TEL：048-858-9629 E-mail：ksyoku12@gr.saitama-u.ac.jp

問 19. あなたは、これまでに大学に限らず、次のような内容について学んだことはありますか。あるものに○を付けてください。(○はいくつでも)

- 1 男女平等、ジェンダー平等について
- 2 デートDV（交際相手からの暴力）について
- 3 セクシャル・ハラスメント（以下「セクハラ」という。）について
- 4 性暴力について
- 5 性教育について

問 20. あなたは、どのような行為がセクハラであるかを知っていますか。

(○は1つ)

- 1 まったく知らない
- 2 あまり知らない
- 3 ある程度知っている
- 4 よく知っている

問 21. セクハラに関するあなたの率直な意見をお聞かせください。

(当てはまるもの1つに○)

項 目	そう思 う	そう思 う気持 ちもあ る	そうは 思わな い	どちら ともい えない
1 性的なジョークや話題を規制すると人間関係が窮屈になる	1	2	3	4
2 セクハラ行為は受ける側にも問題がある	1	2	3	4
3 少々のセクハラにいちいち目くじらを立てるべきではない	1	2	3	4
4 相手が女性か男性かによって、仕事・研究への期待や要求が異なるのは仕方がない	1	2	3	4
5 勘違い又は悪意によるセクハラのエン罪が発生することが心配である	1	2	3	4

問 22. あなたは、どのような行為がデートDV（交際相手からの暴力）であるかを知っていますか。

(○は1つ)

- 1 まったく知らない
- 2 あまり知らない
- 3 ある程度知っている
- 4 よく知っている

問 23. 交際相手から以下のような行為があった場合、あなたはそれをデートDVだと思いますか。(当てはまるもの1つに○)

項 目	D V だ と思う	D V だ と思わ ない	どちら ともい えない	わから ない
1 携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする	1	2	3	4
2 すぐに電話に出なかったり、メールを返信しないと怒る	1	2	3	4
3 思い通りにならないと、どなったり、おどしたりする	1	2	3	4
4 物を壊したり、投げたりする	1	2	3	4
5 何を言っても無視する	1	2	3	4
6 バカにしたり、ののしったりする	1	2	3	4
7 「別れたら死ぬ」といっておどす	1	2	3	4
8 いつも一緒にいることを強要する	1	2	3	4

問 24. 次のデートDVに関する考え方について、あなたはどのように思いますか。

(当てはまるもの1つに○)

項 目	そう思 う	そう思 う気持 ちもあ る	そうは 思わな い	どちら ともい えない
1 相手が自分を怒らせるようなことをした場合、あるいは自分が相手を怒らせるようなことをした場合は、DVがおこっても仕方ない	1	2	3	4
2 相手の愛情を確かめるためにDVがおこることもある	1	2	3	4
3 相手が自分の思い通りにならないときにDVがおこるのは仕方ない	1	2	3	4
4 DVの加害者はいつも男とは限らない	1	2	3	4

問 25. 授業中に、教員から次のような扱いあるいは発言を経験したことがありますか。

(当てはまるもの1つに○)

項 目	経験がある	見たことがあ る	経験も見たこ ともない
1 女子が優遇される	1	2	3
2 男子が優遇される	1	2	3
3 性に限らず差別的な扱いを受ける	1	2	3
4 性差別的な発言	1	2	3
5 セクハラと思われるような発言や行為	1	2	3

問 26. 教育実習、介護実習などの実習経験はありますか。(○は1つ)

- 1 はい→問 27へ 2 いいえ→問 28へ

(問 26で「はい」と答えた方にお聞きします)

問 27. 教育・介護実習先で、次のような扱いあるいは発言を経験したことがありますか。

(当てはまるもの1つに○)

項 目	経験がある	見たことがある	経験も見たこともない
1 女子が優遇される	1	2	3
2 男子が優遇される	1	2	3
3 性に限らず差別的な扱いを受ける	1	2	3
4 性差別的な発言	1	2	3
5 セクハラと思われるような発言や行為	1	2	3

問 28. クラスやサークルなどの学生同士の関係の中で、次のような経験をしたことがありますか。(当てはまるもの1つに○)

項 目	経験がある	見たり聞いた りしたことが ある	いずれもない
1 性別による役割がある	1	2	3
2 性暴力、性的ないやがらせやいじめ(男性に対するものや同性同士も含む)	1	2	3
3 水着やハダカになるよう強要される	1	2	3
4 集団で風俗(買春)に行くことを誘われる	1	2	3
5 風俗に行った(買春した)話を聞かされる	1	2	3
6 容姿・体型・服装などについて繰り返し話題にされる	1	2	3
7 気軽に身体に触られる	1	2	3
8 性的なうわさを流される	1	2	3
9 胸、お尻、脚などの身体の一部を見つめられる	1	2	3
10 食事やデートにしつこく誘われる	1	2	3
11 酔って抱きつかれたり、触られたりする	1	2	3
12 性的な内容の電話、手紙、メールを送られる	1	2	3
13 性別による決めつけや差別的な発言	1	2	3
14 「おかま」「ホモ」「レズ」といった言葉でのからかい	1	2	3

(問 28「1 性別による役割がある」で「経験がある」「見たり聞いたりしたことがある」と答えた方にお聞きします)

問 29. 具体的にはどのような役割ですか。(○はいくつでも)

- 1 リーダーはたいてい男性である
- 2 料理やコンパの後片付けなどの世話役割は女性がやる
- 3 マネージャーは女性である
- 4 重い荷物を持つのは男性である
- 5 コンパ代は男性の方が多く払わされる
- 6 女性がお弁当をつくる
- 7 その他 ()

問 30. アルバイトやインターンシップ先などで、セクハラを受けた経験はありますか。

(○は1つ)

- 1 ある→問 31 へ
- 2 ない→問 32 へ

(問 30 で「ある」と答えた方にお聞きします)

問 31. それは、具体的にどのような内容ですか。

問 32. 埼玉大学が作成し、HP上で公開しているハラスメントについてのパンフレットを見たことはありますか。(○は1つ)

- 1 パンフレットを見たことがある
- 2 HP上で見たことがある
- 3 見たことはない

問 33. 埼玉大学には、ハラスメント相談の窓口があるのを知っていましたか。

(○は1つ)

- 1 はい
- 2 いいえ

問 34. 本学の男女共同参画の取り組み等に関して自由にご意見をお書きください。

以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

ご協力ありがとうございました

【調査に関するお問い合わせ】

埼玉大学総務部人事課教職員係

[TEL] 048-858-9629

[FAX] 048-858-3678

[E-mail] ksyoku12@gr.saitama-u.ac.jp